

令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第4号（水稻）

令和6年7月5日発表（対象期間：令和6年7月上旬～7月下旬）



1-（1）

水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
葉いもち	※中北部	並 	やや多 	・中北部は発生が多く見込まれるため、穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。 ・置き苗は発生源になるので、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。 ・育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行ってください。 ・いもち病に弱い品種では特に注意しましょう。 ・発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
	南部	並 (発生なし) 	並 	
紋枯病		やや多 	やや多 	・梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 ・昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ		並 	並 	・穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 ・一部の飼料用米では、特に注意しましょう（北陸193号、タカナリなど） ・飼料用米では、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル（農林水産省HPに移動）」を参考に防除して下さい。 ・要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ		並 (発生なし) 	並 	・今後の飛来によっては、発生量が増えることもあるため、注意しましょう。 ・第1世代幼虫が発生する7月中旬頃にはほ場での発生を確認しましょう。 ・防除判断は、8月下旬（飛来後第2世代幼虫発生期）です。
斑点米カメムシ類		やや少 	並 	・早生は出穂が早いいため防除時期を逸さないようにしましょう。 ・出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控え、中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。 ・予察灯（呉市安浦町）のアカスジカスミカメの誘殺は、平年に比べてやや少なくなっています。

※中北部とは、北部、中東部、中西部を合わせた地域です

① 葉いもち

予報の根拠

(+) : 多発要因、(±) : 平年並、(-) : 少発要因

中北部

現況

予報

並



やや多



南部

現況

予報

並
(発生なし)

並



- 7月上旬巡回調査では、県全域では平年並みの発生でした(±)。
- 中国地方1か月予報では、降水量は多く、日照時間は少ない(+)。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、中東部が平年より多く(+)、北部は平年並み(±)、中西部、南部は平年より少なくなっています(-)。

【防除上の注意事項】

- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行いましょう。6月以降の田植で遅効性の抵抗性誘導剤を使用した場合、効果が劣ることがあるため、いもち病に弱い品種では特に注意が必要です。
- 葉いもち初発確認後の早い時期に防除効果が高くなります。発生が見られたほ場では、速やかに防除しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。



「病害虫図鑑 (普通作物)」

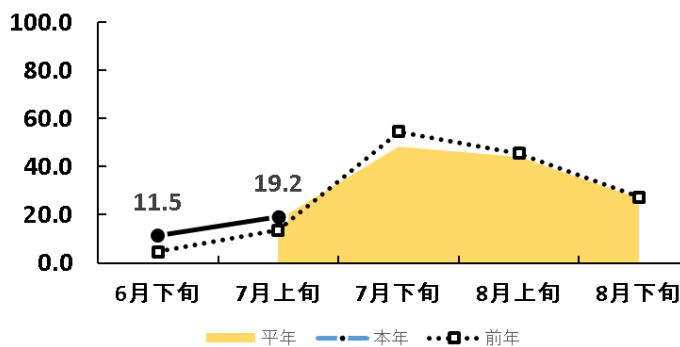
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

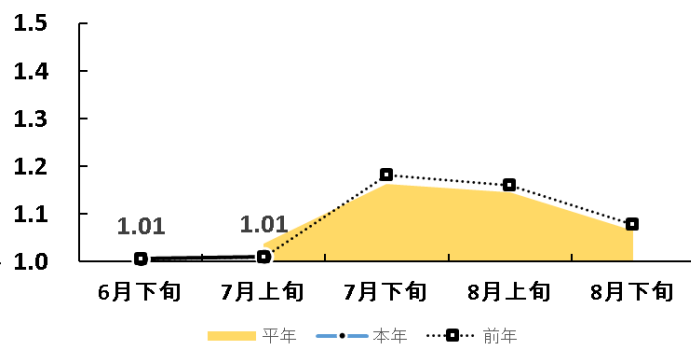
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

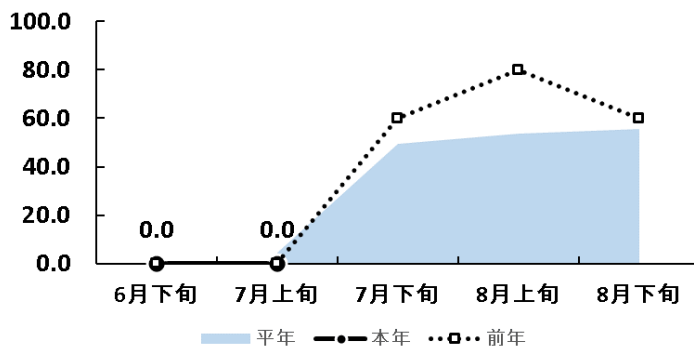
葉いもち 発生地点率(中北部 26地点)



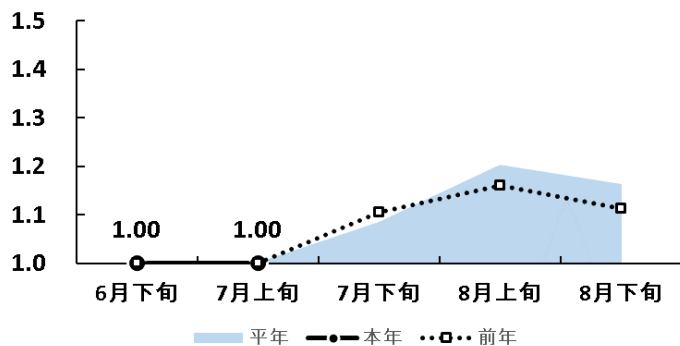
葉いもち 発生程度(中北部 26地点)



葉いもち 発生地点率(南部 8地点)



葉いもち 発生程度(南部 8地点)

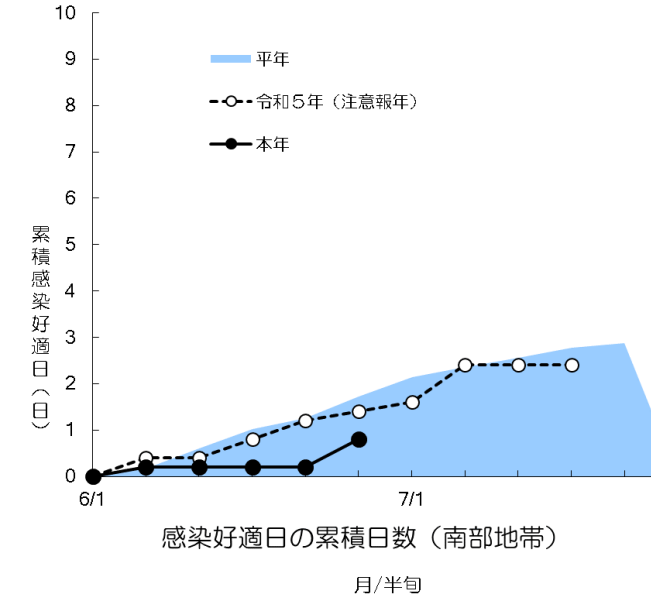
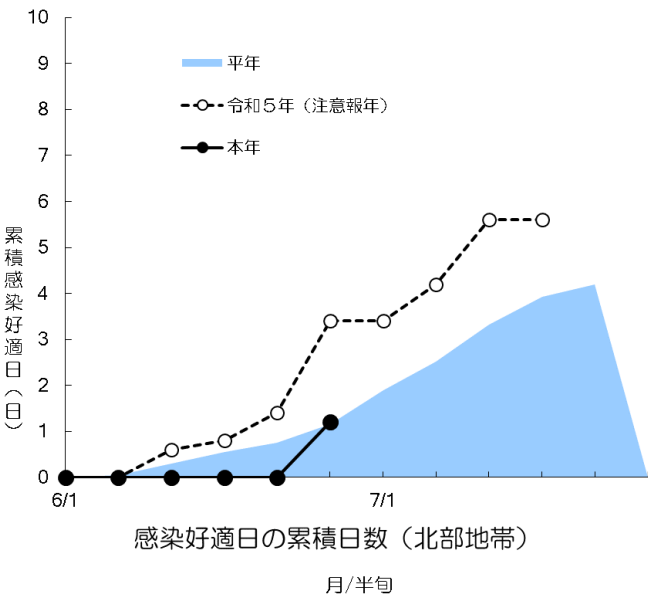
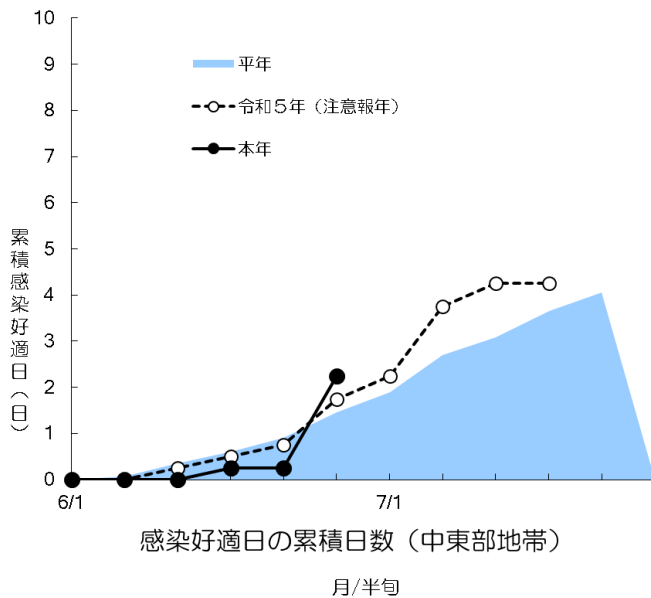
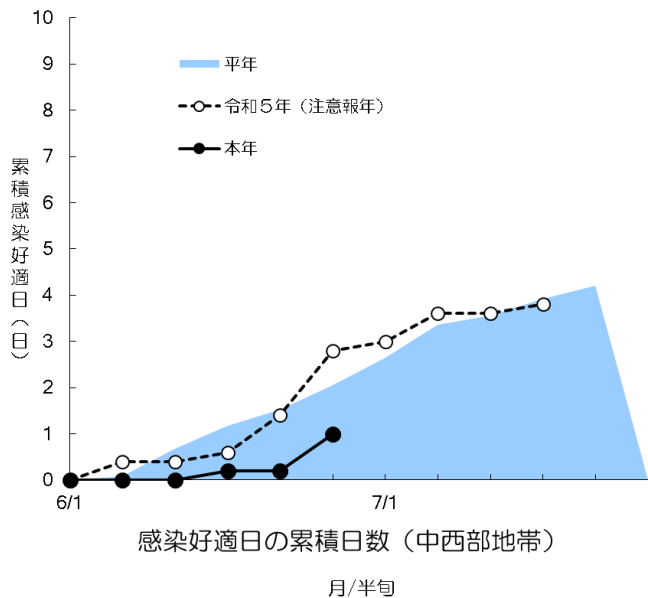


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

現況



予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月上旬巡回調査では、1地点で確認されました(+)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量が多く見込まれるため、紋枯病の発生が助長されます(+)。

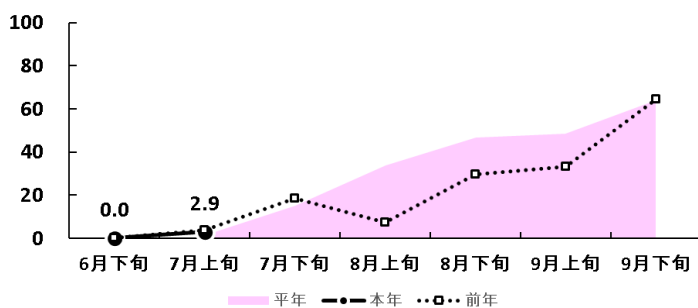


【防除上の注意事項】

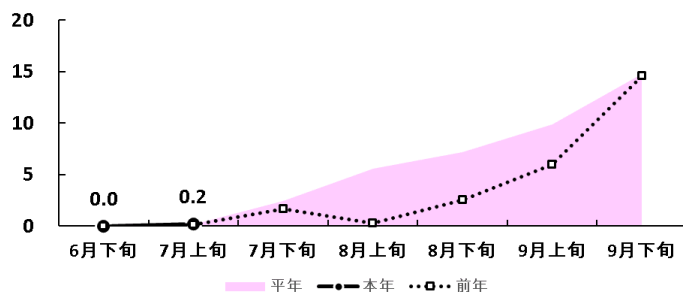
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(県全域34地点)

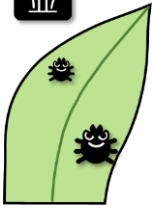
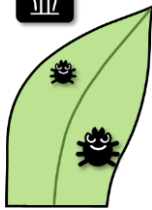


紋枯病 発生株率(県全域34地点)



③ セジロウンカ

現況  予報

予報の根拠		並	並
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 7月上旬巡回調査では、県内の4割のほ場で発生が確認されました(+)。 ● 予察灯では、5月27日に雄成虫1頭が初確認され(呉市)、6月16日以降、大きな飛来が見られています(呉市62頭・東広島市14頭)(+)。 ● 予察田(呉市)では、6月第5半句以降発生が増えている(+) ● 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です(+)		

【防除上の注意事項】

●穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底しましょう。

●ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。

しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、田植えが5月上旬までの場合、第1世代幼虫の発生盛期となる7月中旬頃にほ場での発生を確認し、防除を実施しましょう。

●今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。

●今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。

●要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

●ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>

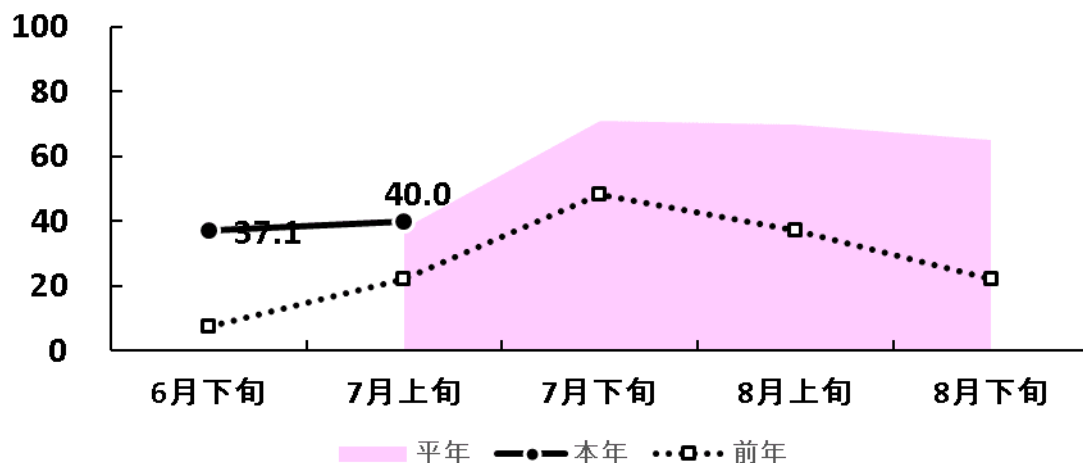


長翅型雌成虫



中老齢幼虫

セジロウンカ 発生地点率(県全域 34地点)



【巡回調査データ】

④ トビイロウンカ

現況

予報

予報の根拠		並	並
(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因	● 7月上旬巡回調査では、発生は見られませんでした。 ● 予察灯（呉市）で、6月24日に雌成虫1頭が確認されました（+）。予察灯（東広島市）、予察田（呉市・東広島市）では、確認されませんでした（-）。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く増殖に好適です（+）。		

【防除上の注意事項】

- 5月上旬までの田植えの場合では、箱施用剤の効果が弱まっている可能性があるため、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃には場での発生を確認しましょう。
- 5月中旬以降田植えの場合では、ウンカ類に卓効を示し長期残効するトリフルメゾピリムなどを含有する箱施用剤を処理している場合、本虫が急激に増殖する可能性は低いと考えられます。
 しかし、箱施用剤を処理していない又は長期残効する箱施用剤を処理していない場合、第1世代幼虫の発生する7月中旬頃には場での発生を確認しましょう。
- 今後も飛来が予想されるため、発生量の増加に注意しましょう。
- 今後の発生状況については、発生予察情報を参考にしてください。
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/475204.pdf>



長翅型雌成虫

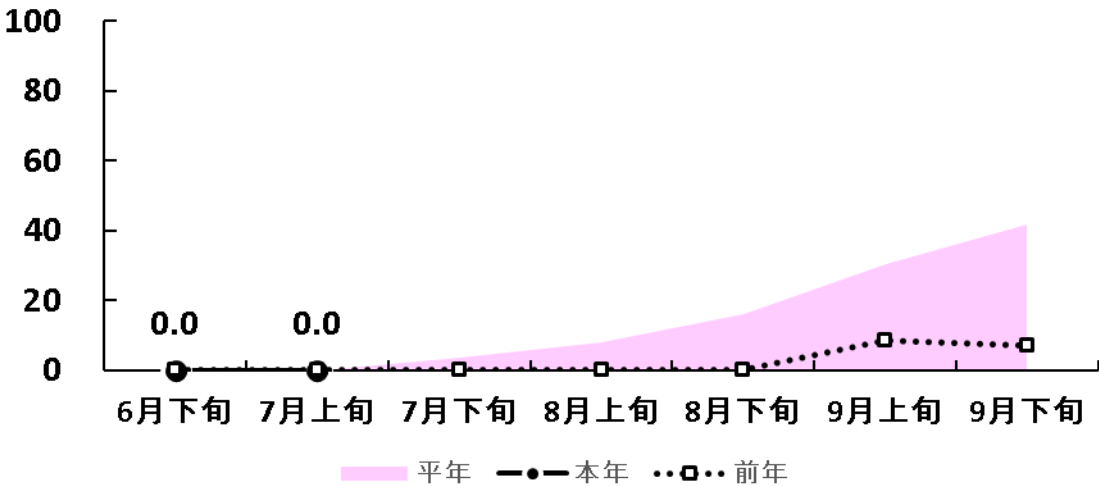


短翅型雌成虫



中老齢幼虫

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 34地点)

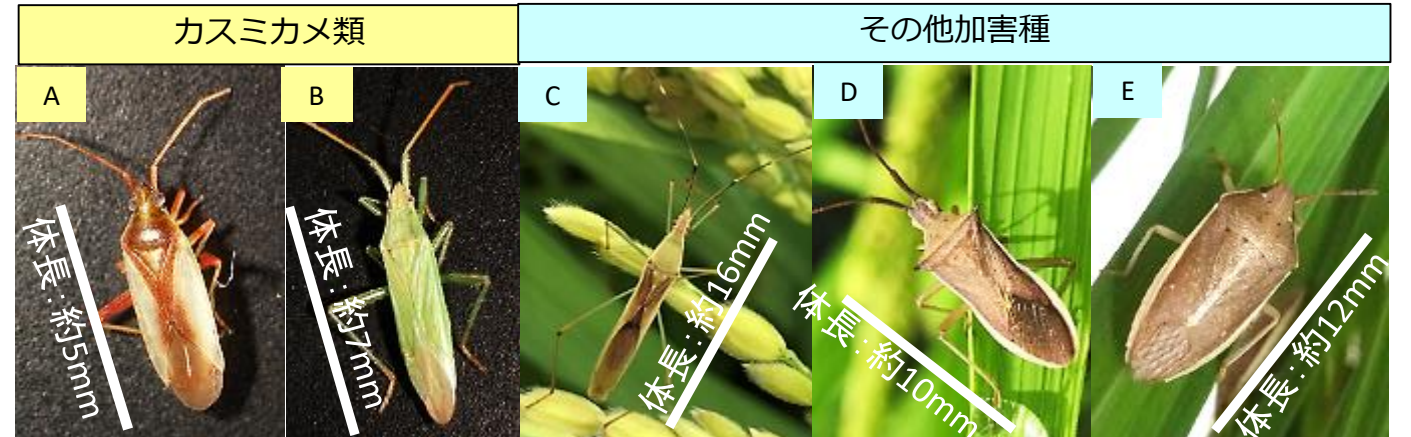


【巡回調査データ】

⑤ 斑点米カメムシ類		現況	予報
予報の根拠	● 6月中旬の牧草地すくい取り調査では、カスミカメ類は平年に比べやや少なく、その他加害種は平年並み発生でした（±）。 ● アカスジカスミカメの6月第6半旬までの予察灯（呉市）への誘殺数は、9頭（平年34.9頭）で、過去10年で最も少なくなっています（－）。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（＋）。	やや少	並
（＋）：多発要因 （±）：平年並 （－）：少発要因			

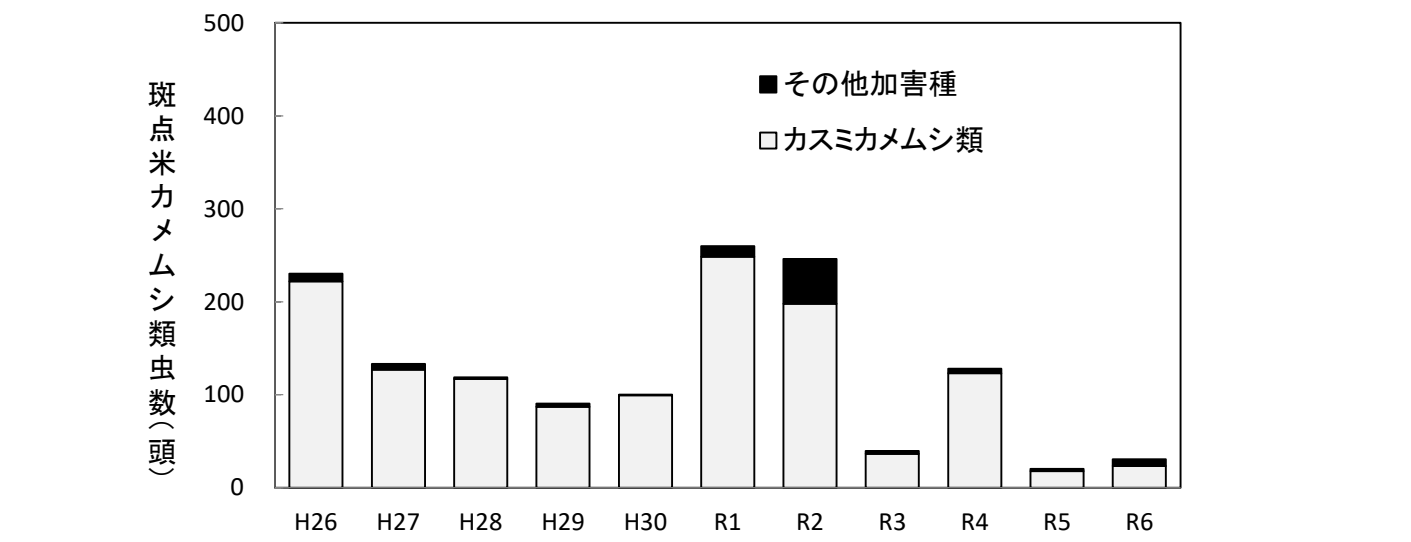
【防除上の注意事項】

- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫いがイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。但し、近年沿岸地域を中心に発生・被害が拡大してるイネカメムシについては、穂ばらみ期の水田に侵入することが確認されており、多発時には出穂前の防除も実施しましょう。
- 早生は、出穂が早いいため防除時期を逸さないようにしましょう。
- 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。
- 要防除水準：（カスミカメ類）4頭以上／20回振り、（その他加害種）2頭以上／20回振り
- 防除時期：（カスミカメ類）出穂期～その10日後に1～2回。
（その他加害種）出穂7日後～14日後に1～2回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。
- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



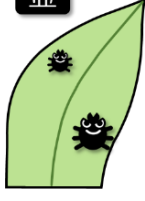
A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ、E：イネカメムシ

斑点米カメムシ類すくい取り調査結果



※発生頭数は捕虫網による牧草地での20回振りすくいとり調査による

※カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類、その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	やや少 	7月上旬の巡回調査では、少ない発生でした。 出穂前後の防除を徹底する。また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	並 	7月上旬の巡回調査ではやや少ない発生でした。 穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。
コブノメイガ	並 (発生なし) 	7月上旬の巡回調査では発生はありませんでした。 ○防除時期：穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行います

(広島地方気象台7月4日発表、7月6日から8月5日までの天候見通し)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率70%、2週目は高い確率50%、3～4週目は高い確率50%です。

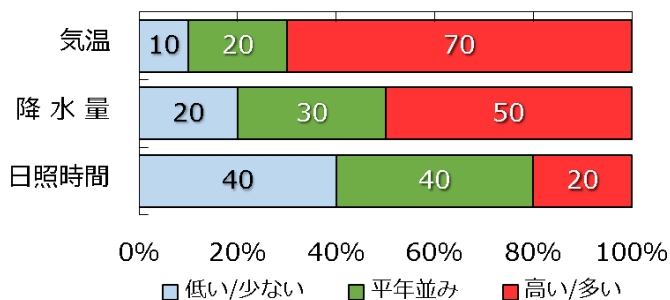


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

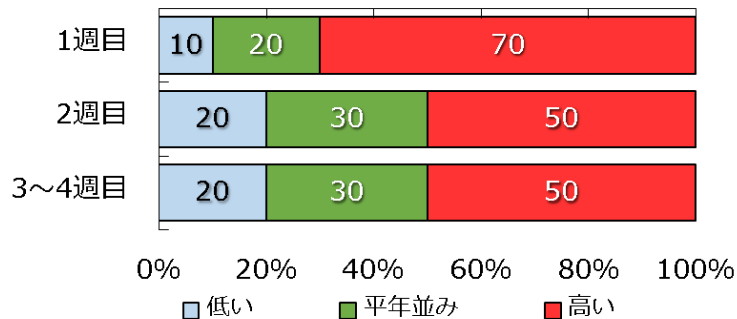
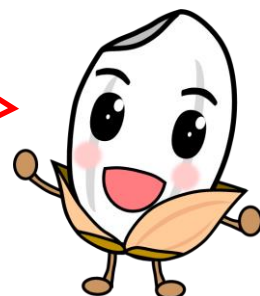


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

ホームページ
リニューアル！



●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）